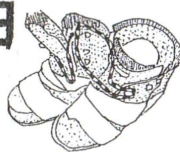




夏号危うし！本来は7月中(下旬?)には発行・発送の予定が、いつできるのか?という情けない状態。しかし追い込まれると力を発揮するタイプ?の私達。なんとか一ヶ月遅れながら完成!...したものの内容もただん危ういです!? 今の自分たちの体力・脚力をきちんと把握して、無理なく、でも諦めずに、できることを楽しんで行きたいと思っています。

天狗岳、登頂ならず

黒百合ヒュッテ泊



八ヶ岳は岩稜が連なる南八ヶ岳と対照的に深い樹林の森と湖沼の北八ヶ岳に分かれます。今回はその北八ヶ岳の最高峰天狗岳登頂を目指す計画でした。しかし、途中のアクシデントのため、登頂を断念、黒

百合ヒュッテまでの往復となりました。今号はその天狗岳未登の顛末の報告です。

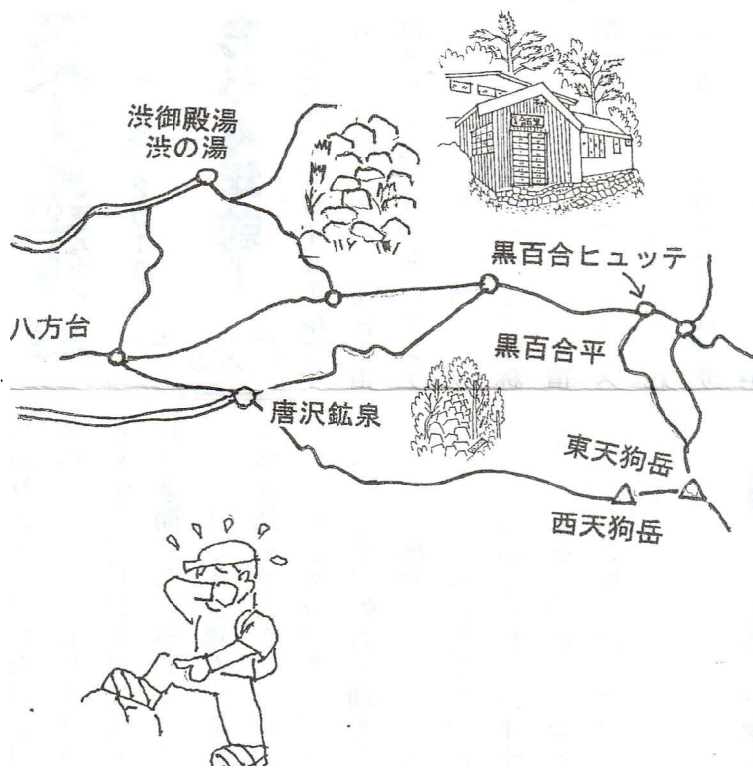
私たちが山登りに嵌り始めたころ、そう今から40年近くも前にこの山に登ったことがありました。その時は洪の湯に泊まり、東天狗から西天狗を経て唐沢鉱泉へ降りました。そこでタクシーを呼んでもらって茅野駅へ戻ったのでした。「西天狗からの下りが辛かった」こと!!それ以外の記憶はほとんどありません。

すべに急登!

洪の湯への道は、その手前にある洪辰野館が運営しているクロスカントリースキーの林間コースに何度か行ったことがあるくらい。それも大分前です。その洪辰野館前を通り、10分ほど進むと洪御殿湯

の立派な建物の前に着きました。少し手前の駐車場で2日分2千円の料金を支払って、車を停め、出発。

洪の湯の前を流れる洪川に架かる橋の手前のポストに登り、山カードを入れ、橋を渡り、すぐにシラビソ、コメツガの鬱蒼とした樹林の中の急登に取り付きました。ジグザグに切られた登山道をひたすら登ってようやく針葉樹林が切れ口当たりのよい小さな広場に出ました。すぐにまた暗い針葉樹林、そしてせつかく急登を登ってきたのにしばらく行くと下り!下りきると唐沢鉱泉から登ってくる登山道との合流点。休憩していた2人の登山者が左手の登山道(岬)を指さし「黒百合平はこっち」と



TOPIC 登山難儀

と教えてくれました。

こんなにも険しい登山道だったわけ?...黒百合平への登りはゴロゴロの大岩が重なり合って、大汗をかきながら登っていきます。途中迂回路の標識があつて迷わず迂回路へ。所々スチール製の穴の開いた橋が架けられていてホッと一息つけました。

行けども行けども延々と続くゴロゴロの登山道をひたすら登っていきます。コースタイムの倍以上も登ったでしょうが、ようやく行く手の樹林が途切れ、木々の隙間から青空が見えるようになってきました。黒百合ヒュッテは近そう!!と

転倒にご用心!!の巻



「八ヶ岳歩こう会」では今、下諏訪から京都に向かって中山道を歩いています。木曾路を過ぎ今は美濃路に入ったところです。7月13日には落合宿。ここは石畳の道がハイライト!とても風情のある道が1キロ近くも続いています。しかし、この日は小雨。濡れた石畳は滑りやすい...注意して歩いていたはずが、最後の方でスッテンコロリン!見事に尻餅(痛ッ!)10秒ほど立てず。その後なんとかへっぴり腰で歩くことはできたのですが、転んだ時に右手をついたようで、小指周辺が痛みます。念のためレントゲンを撮ってもらったら...「折れています」びっくり!添木を当てて包帯グルグル巻きに!夏の繁忙期の前で超困りますが、ビニール袋に右手を入れて水仕事をしたり、小指をぶつけないように動かしたり...。1~2ヶ月はかかる用ですが、大腿骨骨折などではなくて良かったです。特にシルバー世代は転倒にはくれぐれもご用心!



思つて振り返ると、周平がしゃがみ込んでいます。

ソールが剥がれたッ

周平が右足を上げると、登山靴の底の部分がつま先を残してビローンと剥がれているではありませんか!!一瞬間の中は真っ白...

幸い、靴紐がかなり長かったのも、それで剥がれたソールを縛ってなんとか歩けそうです。剥がれた地点から黒百合平までそれほど遠くなく、たのも幸いしました。ゆっく

りゆっくり歩いて樹林を抜けると黒百合平に出来ました。ヒュッテに転がり込み、事情を話すと「ガムテープで縛って応急処置しましょう」と言ってくれました。

この時点で、東・西天狗岳の登頂は諦め、あしたは登ってきた道を引き返すことにしました。

黒百合ヒュッテに泊まるのは初めてです。今は個室が主流?でも大部屋も泊りの登山者は少なかったので、ゆったりしていました。夕ご飯は5うらへつづく

表からつづく

時からでハンバークがメイン。缶ビールあり。

ガムテープで

グルグル巻きに



翌日、朝食後、靴箱から取り出してみたら、なんともう片方の靴のソールも剥がれていりませんか！考えてみたら、最近低山やトレッキングはキーン靴ばかり。今回履いてきたローバーの靴は本格登山のときだけ、というので4〜5年(以上?)ほとんど出番なし。例外は赤岳と硫黄岳だけ。劣化もするはず。ヒュッテの人がガムテープで剥がれたソールをグルグル巻きに固定してくれました。「滑りやすくなると思うので気をつけて」の声を背に出発です。

慎重に下山



天気は上々、ヒュッテの前から天狗への登山道が続いています。それが横目になんとか無事に下山しなければなりません。ゆつくりゆつくり。大きな岩が折り重なる昨日登ってきた登山道を慎重に下りました。2時間ほど下ると唐沢鉱泉への分岐。ここで大岩の登山道は終了、やれやれ、ここでひと休み。みるとガムテープはかなりポロポロになっています。

まだまだ先は長い。気を抜かず、光差す樹林の中をそろりそろりと下っていきました。

1時間ほど下っていくと下の方から渋川の流れる水の音が聞こえてきました。コメツガやシラビソの針葉樹林の密度がまばらになって、昨日出発した渋御殿湯の建物、その前に渋川にかかる橋が見えてきました。なんとかガムテープグルグル巻きの登山靴も持ちこたえてくれました。

周平は運動用の運動靴に履き替え、シートを倒して仮眠(爆睡!)。20分ほど目を覚ますと「すっきりした。よしっ! 帰ろう」

反省しきり



今回は、本当に反省するところばかりでした。体力は確実に大きく落ちていくこと、道具・装備の点検、非常時に持っていないければならないもの、保険等々...

コースタイムは倍位は見ているし、以前日帰りで行ったところは一泊、一泊の所は二泊くらいで行く、ということ。は普段から気をつけていたが...

やつぱり、だんだんウォーキングが主となると思います。苦いけれど良い薬になりました。無事に帰れて本当に良かったです。

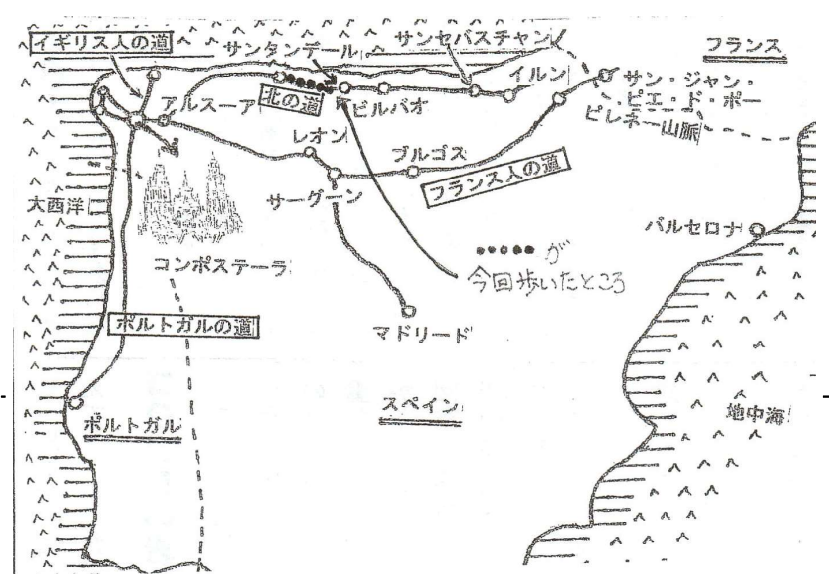
スペイン巡礼の道

【北の道】2019年 第01

もう4年前!



今号から2019年編です。カミーノノーススペイン巡礼の道はスペインの西にあるサンティアゴ・デ・コンポステーラまで続くいくつかの道の総称です。一番多く人が歩く道が、カミーノ・フランセーズ(フランス人の道)と言われるフランスの西のはずれ、サンジャン・ピエ・ド・ポーからピレネー山脈を越えて歩く800キロの道です。もちろんそのもつと手前から歩く道



もありです。私たちは2013年・14年・16年の3回、6月から7月にかけてそれぞれ3週間くらい歩いてゴール。そして2017年から北の道を歩き始めました。3年かかってやっと半分。そしてコロナ禍となり、体力・脚力も落ち、もう卒業かな? という状態です。4年も前なので自分でもすっかり忘れていますが撮った写真や当時のブログ等を見ながら思い出して書いています。

1日目 ヴェイヴェエダ FEVEREに乗り

昨年(2019年)暮れに腰を痛め、さすがにもう歩き旅は卒業か...と思っていたら、

徐々に痛みはうすれ、今年も行ってきました。昨年サンタンデルまで到着。さらに10キロ程歩き、ゴールとしたのでした。今回はパリからビルバオまで飛行機。ビルバオで一泊して翌日バスでサンタンデルへ。そこでまた一泊して次の日か

ら歩き始めました。

駅前のカフェで朝食を取りサンタンデル駅から乗車。前回ゴールの2つ先まで行っちゃいます。Mogroと言う駅です。国鉄? はBICOMというみたいですが、この電車はBICOM。私鉄かもしれません。

切符売場の駅員さんに。下りたい駅名を示し、スムーズに買えて感激。人がいてくれるのはありがたい。改札で切符を投入し扉が開くのを待っていたら切符を取らないと開かないのでした。無事乗り込み、目指す駅で下車すると巡礼者と思われる若者が3名。小雨が降っていたので雨具を着ているうちに先に行っちゃいます。

さて今回の第一歩を踏み出ししばらく歩いても黄色の矢印が見当たりません... どうも間違えたようです。やれやれ...。駅に戻り、反対方向へ。矢印ありました! ひと安心。天気は曇り時々小雨。向こうの丘から雲が湧いていて、その光景も素敵です。しばらく歩いてみると年配の女性(セニョーラ)が近づいてきました。スペイン語で話かけられましたが、もちろんわかりません。でも根気よく伝えようとしてくれます。どうも「この坂をこのまま下りて行け、そうすればマルだ」と言っているようです。標識は

右折。迷いましたが、真っすぐ行って見たら、大正解。マルというかわいい駅がありバルもありました。標識の通り行くより近道だったようです。きょうは13キロ程歩いてヴェイヴェエダ泊。

2日目

サンティジャーナデルマル 世界で一番美しい村

今回はこの街を訪れるのが楽しみのひとつでした。歴史を感じる建物や石畳の道。町の人々は親切。観光地らしいお店も並んでいて、覗くだけでも楽しい。実はこの日は周平の誕生日。フンパツしてパレードを予約しました。食事はフンパツしきれず街中のレストランへ。

3日目

コフレセス

抜けるような青空! 気持ちのよい道を歩いていると丘の上に教会。入ってみるとジュースのお接待。ありかたい。鐘楼まで登ってみるよう勧められたので、他の巡礼者の方たちと一緒に登らせてもらいました。説明はほとんどわかりませんが...

4日目

コミージャス

コミージャスはこのあたりではちょっとしたお町のようなです。広場のまわりはレストランとバル♪ (つづく)